

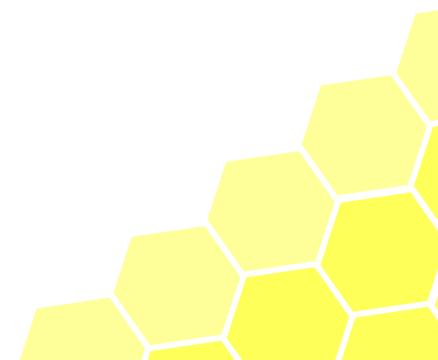
養蜂をめぐる情勢（補足資料）

1. 令和7年度養蜂等振興強化推進事業の取組について
 - (1) 養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の取組・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業）蜜源植栽事例・・・・・・・・ 2
 - (参考) 養蜂における重点支援交付金の活用事例・・・・・・・・・・ 7

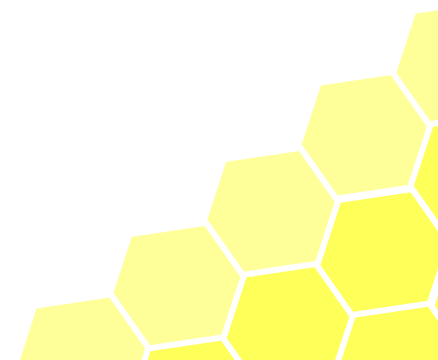
2. 令和8年度養蜂等振興強化推進事業の取組について
 - (1) 令和8年度養蜂等振興強化推進事業の概要・・・・・・・・・・ 8
 - (2) 花粉交配用蜜蜂安定供給のための蜂群管理技術の実証・普及・・・・ 9
 - (3) 耕種農家と養蜂家の連携によるレンゲの定着支援・・・・・・・・ 10
 - (4) 令和8年度園芸関係者向け勉強会、全国会議の開催について・・・・ 11
 - (参考) 園芸産地と養蜂家の連携事例について・・・・・・・・・・ 12
 - (5) 園芸農家における蜜蜂の適正管理技術等の実証について・・・・ 13

3. 花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制整備について
 - (1) 花粉交配用蜜蜂不足に備えた体制整備について・・・・・・・・・・ 14
 - (2) 花粉交配用蜜蜂不足に対する産地での対応策・・・・・・・・・・ 15

令和8年8月
農 林 水 産 省



1. 令和7年度養蜂等振興強化推進事業 の取組について



(1) 令和7年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の取組

蜂群配置調整の円滑化を図るには、調整の必要性や根拠に理解を得るためのデータが必要

適正な蜂群配置調整の参考となる次の取組を支援。

- ①優良事例の調査・分析
- ②蜜源植物の位置や植物の種別、蜂群の位置情報をはじめとする関連データを蓄積・活用するための検討会の開催や地図データの作成



〈養蜂に関する各種データの関連分析事業〉

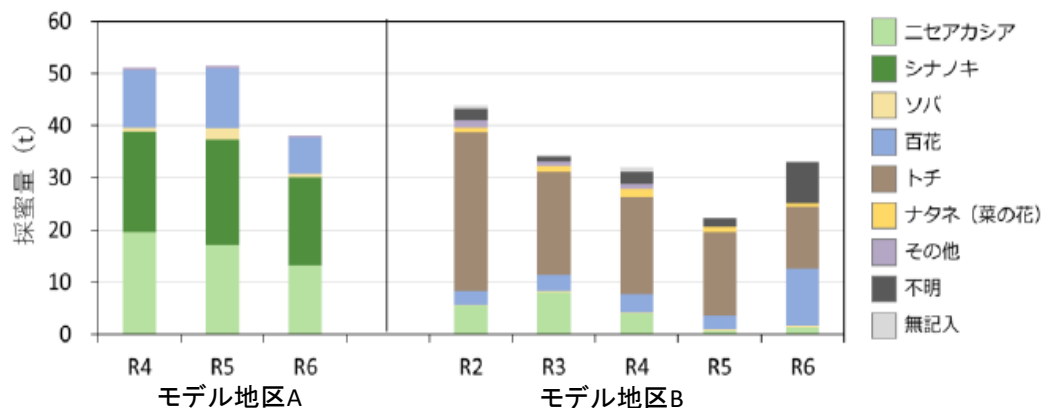


表: 蜜源植物ごとの際蜜量の年次変動

【取組】

- ・地域ごとの飼育群数や採蜜量、地図データ、気象データ等の相関解析を実施。
- ・モデル地区の地域特性や採蜜効率の地域間差が認められ、気象条件や蜜源の分布との関連が示唆された。

【今後に向けて】

- ・地域差の相関を明らかにするには、
 - ①データ解析対象の拡大
 - ②継続的な動向の把握が重要。
- ・また、モデル地区間のデータ量の差異が課題。

★配置調整の根拠となるデータを作成するには、各都道府県からのデータ提供が不可欠です。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例①— 1

事業実施主体：鹿児島県養蜂振興推進協議会
(構成員：鹿児島県、鹿児島県養蜂協会)

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・草本(12.5ha):レンゲ(375kg)
- ・樹木(0.43ha):ソヨゴ(メス木)(304本)
ミモザ(170本)

2 植栽地の確保

事例1

蜜源植物の植栽・管理
(曾於市笠木地区、枕崎市田布川地区)

- ▷ 当協議会の構成員が蜂場のある地区コミュニティ協議会の賛同を得て、管理する荒廃農地にレンゲを植栽
 - ・曾於市笠木地区 レンゲ(2ha)
 - ・枕崎市田布川地区 レンゲ(3ha)
- ▷ レンゲを活用した荒廃農地の保全には、畦畔の除草作業等管理が必要なことから、当協議会と地区コミュニティ協議会で業務委託契約を締結し、適正管理を委託。
- ▷ 植栽作業の実施者
地区コミュニティ協議会の会員(農家)

事例2

養蜂家と耕種農家の連携による蜜源植物の定着化
(薩摩川内市東郷町山田地区、水引町小倉地区)

- ▷ レンゲの定着化を図るため、水稻の裏作としてレンゲを植栽
 - ・薩摩川内市東郷町山田地区 レンゲ(6ha)
 - ・薩摩川内市水引町小倉地区 レンゲ(1.5ha)
- ▷ これまで農家の協力を得て、水稻の裏作として播種してきたが、レンゲの種子が熟す前にすき込みされることが多かった。そこで耕種農家等と連携し、すき込みを遅らせることでレンゲの定着化(次年に自然発芽)を目指す実証に取り組む。
- ▷ レンゲを定着化させるには、アルファルファタコゾウムシ対策等の除草作業等管理が必要なことから、当協議会と耕種農家等で業務委託契約を締結し、適正管理を委託。
また、耕種農家等と調整し、すき込み時期を地域慣行よりも遅らせ、レンゲの定着化を目指した実証ほを設置
- ▷ 植栽作業の実施者
耕種農家等

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例①－2

事業実施主体：鹿児島県養蜂振興推進協議会
(構成員：鹿児島県、鹿児島県養蜂協会)

2 植栽地の確保

事例3

蜜源植物の植栽・管理(薩摩川内市東郷町)

- ▷ 当協議会の構成員が住んでいる(蜂場のある)地区コミュニティ協議会の賛同を得て、地区コミュニティの会員の土地に樹木を植栽
 - ・樹木(0.29ha):ソヨゴ(メス木)(160本)
ミモザ(160本)
- ▷ 樹木について、これまで協議会構成員の土地に植栽するケースが多かったが、新たな植栽地の確保に苦慮。そこで、協議会構成員が自分の住んでいる(蜂場のある)地区コミュニティ協議会と連携し、これまでにない規模の植栽地を確保
- ▷ 当協議会、構成員、地区コミュニティ協議会の三者で合意書を締結し、備品である樹木の適正管理を担保
- ▷ 植栽作業の実施者
地区コミュニティ協議会の会員

3 蜜源としての利用可能時期

【草本】

レンゲ:令和8年4月～5月

(熟したレンゲの種子が落ちれば、複数年の利用が可能)

【樹木】

ソヨゴ(メス木):5月～6月

ミモザ:3月～4月

(ある程度の利用には数年以上かかる見込み)

4 補助事業を活用した所感

- ▷ レンゲの定着化の難しさ
 - ・枯熟期にすき込みを行えば、レンゲの定着化につながると思われるが、水稻の置かれている現状とレンゲの定着化は相関関係にないのではないかと。
 - ・担い手に集約されつつある水稻作付けは、普通期栽培でも3月から計画的にすき込みが始まってきており、地域の兼業農家もその影響からすき込みが早進化している。
 - ・夏場の高温障害対策で、普通期栽培でも早進化して田植えをする品種への移行が進みつつあり、併せてすき込みも早進化している。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例②

事業実施主体：岡山県養蜂組合連合会^{とまだ}苫田養蜂組合協議会

（構成員：岡山県養蜂組合連合会、岡山県養蜂組合連合会苫田養蜂組合、株式会社山田養蜂場、岡山県農林水産部畜産課、岡山県鏡野町産業観光課）

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・樹木(1,836㎡)： ヤマザクラ、トチノキ、ソゴゴなど、蜜源や花粉源となりえる樹種を中心に23種類(7,400本)

2 植栽地の確保(岡山県苫田郡鏡野町馬場)

協議会の取組に賛同した土地所有者から提供された、利用見込みのない土地に植栽。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・原野未利用地、耕作放棄地
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・協議会構成員である養蜂家と企業
 - ・一般のボランティアなど
 - （合計234名が参加）



3 蜜源としての利用可能時期

【樹木】

令和12年頃から利用開始見込み



（植樹後の様子）

4 補助事業を活用した所感

- ▷ 苗木調達から造成工事に至るまでの準備がスムーズに行えたことで、植樹を計画通り実施できた。
- ・状態の良い苗木を確保することができた。
- ・苗木の活着に必要な基盤整備を十分に行えた。
- ・一般ボランティアが安全かつ円滑に植樹作業に従事できる環境を整備できた。
- ・公的な支援を受けることで、養蜂家と企業と地域が連携して自然環境を次世代へ繋ぐことができた。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例③

事業実施主体：長野県蜜蜂協議会

（構成員：長野県養蜂協会、一般社団法人 長野県畜産会、養蜂家、長野県農政部園芸畜産課）

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・樹木(2ha)：ニセアカシア(400本)
ヤマザクラ (400本)

2 植栽地の確保(飯田市)

養蜂家が所有している土地への植栽に際し、周囲の賛同を得て実施し、蜜源の少ない山林を充実した蜜源として活用することができた。

特にニセアカシアの植栽については、慎重に進めた上で隣接している土地所有者の同意書を取り事業の実施に至った。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・山林
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・樹木 委託業者
- ▷ 獣害防護筒の設置者
 - ・協議会構成員である養蜂家



獣害防護筒の設置

3 蜜源としての利用可能時期

【樹木】

- ・ニセアカシア
植栽してから数年
後に利用開始見込み
- ・ヤマザクラ
ニセアカシアより
さらに年数がかかる
見込み



ニセアカシア
(ピンクテープ)



ヤマザクラ
(青テープ)

4 補助事業を活用した所感

▷ メリット

- ・多くの蜜蜂を飼養する長野県にとって蜜源の確保は貴重であった。
- ・補助は定額であったので取り組みやすかった。
- ・蜜源の確保とともに養蜂振興に係るイベントを開催し、国産ハチミツの普及啓発につながった。
- ・養蜂家の生産意欲の向上につながった。

▷ その他

- ・補助事業に取り組むにあたり、補助事業の知識や経験があるとさらに円滑に事業を進められると思われた。

(2) 養蜂等振興強化推進事業（地域公募事業） 蜜源植栽事例④

事業実施主体：宮城県養蜂推進協議会

(構成員：宮城県、富谷市、丸森町、宮城学院女子大学、
宮城県養蜂協会、養蜂家)

1 植栽した蜜源植物の種類、面積

- ・草本(47,971㎡)：イエローマスタード(32,206㎡)
キザキノナタネ(9,765㎡)
ラベンダー(6,000㎡)
- ・樹木(9,765㎡)：ヤマザクラ(40本)
* キザキノナタネと同所

2 植栽地の確保(丸森町、富谷市)

丸森町に於いては、協議会の取組に賛同した土地の所有者の協力により、農家の担い手不足のため利用見込みのない土地を植栽に活用。

富谷市に於いては、市が指定管理している市の施設内に養蜂家が所属している団体が植栽。

- ▷ 植栽前の土地の利用状況
 - ・休耕地、耕作放棄地
 - ・自治体所有地
- ▷ 植栽作業の実施者
 - ・協議会構成員である養蜂家、大学生
 - 地域ボランティア

3 蜜源としての利用可能時期

【草本】

- ・イエローマスタード、キザキノナタネ
令和8年4月頃
- ・ラベンダー
令和8年5~7月頃
(ラベンダーは多年草で5年程度は継続利用可能)

【樹木】

- ・令和12年頃から利用開始見込み

4 補助事業を活用した所感

- ▷ 蜜源の少ない宮城県において、蜜源の増殖はミツバチの育成に役立っている。
- ▷ 地域の方々に有償ボランティアとして協力をお願い活動を進めている。そのため植栽地の管理は養蜂の繁忙期と重なるが、順調に管理を進められている。
- ▷ 富谷市では、植栽や管理作業をイベント化して活動を行っている。そのために地域の方々のうち特に子供たちに養蜂に関する情報提供ができ、養蜂に対する理解が深まっていると思う。

〈参考〉養蜂における重点支援交付金の活用事例

栃木県(畜産)

事業名：養蜂経営安定化物価高騰緊急支援事業費

予算額：1,969千円

概要：飼料や薬剤価格の高騰により影響を受ける
養蜂家に対し、資材購入費用を補助

(定額：187円/群)

対象蜂群数：令和7年蜜蜂飼育計画の届出群数

山形県(園芸)

事業名：さくらんぼ結実確保緊急支援事業

予算額：88,000千円

概要：マメコバチの減少等により、さくらんぼの結実が
不安定となっていることを踏まえ、結実確保に
向けて、さくらんぼ農家に対し、マメコバチの不足
を補うミツバチの導入費及び輸入花粉の購入を
補助(1/2)

事業対象期間：令和8年4月実施の蜜蜂導入

熊本県(畜産)

事業名：蜂群増殖緊急対策事業

予算額：26,250千円

概要：物価高騰により暑熱及び衛生対策に苦慮する
養蜂家に対し、飼育箱購入を補助(1/2)

事業期間：令和7～8年度

熊本県(園芸)

事業名：花粉交配用昆虫確保緊急対策事業

予算額：12,000千円

概要：生産資材費等が高騰する中で、花粉交配昆虫
を緊急的に確保するため、花粉交配用昆虫の
適正管理に必要な資材導入や代替昆虫導入等
の取組みを支援(1/2以内(上限補助額：
500千円/団体))

事業期間：令和7～8年度